2022年7月11日

学 校 法 人 三 幸 学 園
神戸元町医療秘書専門学校
校長　西島　多枝子　殿

学 校 関 係 者 評 価 委 員 会
委 員 長　　佐 野　　匠

学校関係者評価委員会報告

2021年度 学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1　学校関係者評価委員

① 沼田　和子　　委員　（医療法人社団あおぞら会　にしかげ内科クリニック）
② 廣石　真由　　委員　（医療法人社団　サンタクルス　医療事務科　第5期卒業生）
③ 佐野　匠　　委員　（飛鳥未来きずな高等学校　神戸キャンパス　主幹教諭）

2　学校関係者評価委員会の開催状況

2022年6月20日（会場　学校法人三幸学園　神戸元町医療秘書専門学校　504教室）

3　学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 2021 年度　学校法人 三幸学園　神戸元町医療秘書専門学校
# 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 ： 副校長　片渕　卓也
学校関係者評価報告責任者 ： 学校関係者評価委員会委員長　佐野　匠
学校関係者評価委員： 沼田　和子
学校関係者評価委員： 廣石　真由

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療・福祉・保育現場を通じて、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

学校スローガン：結果にこだわる

教育目標：新入生ー凡事徹底　進級学年ー社会人基礎力の醸成

卒業時ー生きる力を身に付けた人材の育成

資格取得・検定合格率目標ー80%以上(受験必須資格のみ) 実績ー89.0%

退学率ー目標 4.0%以内　実績 3.8%

生徒募集ー目標 100 名　実績 61 名

## 3.評価項目の達成及び取組状況

### (1)教育理念・目標

| 【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1） | 評価 |
|---|---|
| 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか） | 4 |
| 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 3 |
| 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか | 4 |
| 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 3 |

① 課題

学校としての教育目標や学科ごとの目指す人材育成像の設定はできているが、具体的な評価と体現に繋げられていない。

② 今後の改善方策

定期的な評価実施と評価から抽出される課題を計画的に取り組み、目指す人材育成像に一層近づけられる教育を行っていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（沼田委員） 方針の浸透について、月1回の定例全体会議を実施し、浸透を図っている。また同会議内にて、年度目標としているテーマを題材に、外部講師を招いて研修を実施している。この会議とは別に、2 週に 1 回スキルアップ研修も実施し、技術・知識の向上にも努めている。

（廣石委員） 法人の理解について、毎日朝礼にて理念唱和をしている。毎日の事であるため、自然と法人理念が定着している。

## (2)学校運営

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|---|
| 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 4 |
| 事業計画に沿った運営方針が策定されているか | 4 |
| 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 4 |
| 人事、給与に関する制度は整備されているか | 4 |
| 教務･財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 4 |
| 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 4 |
| 教育活動に関する情報公開が適切になされているか | 4 |
| 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 3 |

①　課題

業務の効率化を図ってはいるがより効果的な情報システム化が必要である。

②　今後の改善方策

デジタル教科書の導入や授業支援クラウドの導入を検討している。

③　特記事項

今年度授業支援クラウドを試験的に使用予定

④　学校関係者評価委員会コメント

（佐野委員）　効率化事例として、授業内にタブレット導入を実施している。1度授業内容を作成してしまえば、姉妹校の教員間で内容を共有できるため、1人1人の業務効率向上には繋がっていると考えられる。また他事例として、職員同士でペアを組み、業務計画や業務進捗状況、課題解決などの確認をすることで、業務量を軽減させることに成功した。上手にペア制度が運用できるよう、役職者が必要に応じて介入している。常に同じペアで確認するばかりでなく、あえてペアを変えて視点を変える事が出来るように工夫をしている。

## (3)教育活動

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|---|
| 教育理念等に沿った教育課程の編成･実施方針等が策定されているか | 4 |
| 目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4 |
| 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 |
| キャリア教育･実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫･開発などが実施されているか | 4 |
| 関連分野の企業･関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成･見直し等が行われているか | 4 |
| 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技･実習等）が体系的に位置づけられているか | 4 |
| 授業評価の実施･評価体制はあるか | 4 |
| 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 |
| 成績評価･単位認定の基準は明確になっているか | 4 |
| 資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 4 |
| 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか | 4 |
| 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務･兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか | 3 |
| 関連分野における先端的な知識･技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 3 |
| 職員の能力開発のための研修等が行われているか | 4 |

①　課題

業界との連携は引き続き強化していく必要がある。

指導力育成など資質向上のための研修は実施できているが、関連分野の先進的な知識･技術を修得するための研修は十分ではない。

②　今後の改善方策

実習や行事だけではなく授業においても関連分野の業界と連携できるよう計画を進める。

関連分野の先進的な知識･技術を修得するための研修の計画を進める。

③　特記事項

なし

④　学校関係者評価委員会コメント

（沼田委員）　院内の勉強会は時期に応じて強化していきたい内容に絞り、知識や対応力スキルを深めている。研修では　外部の方を招き実施する機会もあるが、内部での実施では、普段の業務の中でどうしたらいいか分からないことや特有な事例に対する意見を出し合いながら解決策を創出する機会としている。

（廣石委員）　在学中は医療事務スキルを優先的に身に付けた方が良いと考えていたが、現場にて出てからは、人の感情に寄り添う適切な言葉がけ、臨機応変な対応力の方がより重要であると感じている。クレーム対応に関しても、気持ちを尊重して対応する方法をもっと重要視して授業を受けていればよかったと感じている。

## (4)学修成果

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|---|
| 就職率の向上が図られているか | 4 |
| 資格（免許）取得率の向上が図られているか | 4 |
| 退学率の低減が図られているか | 3 |
| 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 3 |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 3 |

① 課題

退学率の低減を図る必要がある。

卒業生の状況を把握しきれていない。

② 今後の改善方策

適性検査やスクールカウンセラーを効果的に活用していく。

卒業生とのネットワークの構築を図る。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（佐野委員） 高校現場において、コロナ禍による退学率の変動はあまり無いように思う。通信制の高校のため、全日制高校以上に一人一人に寄り添ったサポートに力を入れており、生徒が相談する相手を選べるよう、副担任配置やスクールカウンセラーを置いている。また月に一度、保護者との連携として電話連絡や面談を行い、日ごろから協力を得られるよう取り組んでいる。

## (5)学生支援

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|---|
| 進路･就職に関する支援体制は整備されているか | 4 |
| 学生相談に関する体制は整備されているか | 4 |
| 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか | 4 |
| 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 3 |
| 課外活動に対する支援体制は整備されているか | 3 |
| 学生の生活環境への支援は行われているか | 3 |
| 保護者と適切に連携しているか | 4 |
| 卒業生への支援体制はあるか | 3 |
| 中途退学者への支援体制はあるか | 3 |
| 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 4 |
| 高校･高等専修学校等との連携によるキャリア教育･職業教育の取組が行われているか | 4 |

① 課題

クラス担任制で担任が主にクラス運営、生徒状況の把握を行っているが、健康管理や生活環境への支援は十分ではない。

卒業生への支援体制は一部構築しているが、十分に活用できていない。

中途退学者への支援を十分に行うことはできていない。

② 今後の改善方策

生徒指導の一環として学校外での健康管理や生活指導を計画的に行っていく。

卒業生支援体制の活性化を図る。

中途退学者へも再入学の可能性の説明などを行っていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（沼田委員） コロナ禍で職場内でも先輩等とコミュニケーションを取ることが以前に比べると少なくなっている傾向が見られる。悩みを言える場がないのではないかと感じるため、学校でその場を設けてもらえると大変ありがたい。また、現場では PowerPoint や Excel を使用した業務もあり、新入社員が苦戦しているところを見ると、パソコンスキルに関した卒業生支援も良いと考える。

（廣石委員） 卒業後に先生たちと会話をする機会がほとんど無いため、年に 1 回くらいの機会があると嬉しい。できれば土日実施で先生と会話できることと共にパソコンスキルを向上できるようなちょっとした研修を受けられたら参加したいと思える。学校から電話をもらえるだけでも嬉しい卒業生はいると思う。

## (6)教育環境

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|---|
| 施設･設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 |
| 学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 4 |
| 防災･安全管理に対する体制は整備されているか | 2 |

① 課題

コロナ禍で避難訓練が行えておらず、ハザードマップを使った説明で終わっている。

② 今後の改善方策

避難訓練の実施

③ 特記事項

緊急地震速報が発報された際の行動案内ポスターを掲示している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

（沼田委員） 年 2 回避難訓練を実施し、通報･消火の訓練も消防署を呼び実施している。訓練前後に行うミーティング内では透析患者の移動導線を綿密に検討している。高齢者も多く介護度の高い方も比例して多いため、布担架なども対応できるようにシミュレーションをしている。また、避難訓練時だけにならないよう、朝礼を使った定期的な確認も行っている。

## (7)学生の受入れ募集

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|---|
| 学生募集活動は、適正に行われているか | 4 |
| 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 4 |
| 入学選考は、適性に行われているか | 4 |
| 学納金は妥当なものとなっているか | 4 |

① 課題

継続的、安定的な入学者の確保。

入学前後のギャップの解消。

② 今後の改善方策

教育活動と連動した広報活動を行うことで、学校のブランド力を強化していく。

高等学校の職業教育と連携した広報活動を行っていく。

③ 特記事項

兵庫県専修学校各種学校連合会に加盟し、同会で定められた生徒募集ルールに則り取り組んでいる。

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

（沼田委員） 中学生職業体験「トライやるウィーク」の受け入れはしておらず看護学生の受け入れのみであるが、今後医療事務実習生の受け入れも検討していきたい。

（廣石委員） 自身の医療事務員を目指すきっかけとして、高校在学中に保護者からの勧めで専門学校のオープンキャンパスに参加し、医療事務を知った。高校の学校生活内では医療事務を知る機会が無かった。

（佐野委員） AO入試制度は進路決定率のことから考えるとありがたい制度だが、専願になるケースが多いため、良く考えた進路活動をせず進路決定にならないように生徒、保護者へ注意している。

## (8)財務

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|---|
| 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4 |
| 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 |
| 財務について会計監査が適正に行われているか | 4 |
| 財務情報公開の体制整備はできているか | 4 |

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画（2018年度～2022年度）の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (9)法令等の遵守

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|---|
| 関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 |
| 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 |
| 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか | 4 |
| 自己評価結果を公開しているか | 4 |

① 課題

個人情報の保護に努めてはいるが徹底という意味では十分ではない。

② 今後の改善方策

個人情報に対するパスワードの設定や郵送物への記録などを強化していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（沼田委員） クリニック全体で個人情報の取扱い研修を定期的に実施している。実務管理として FAX や郵送に関しては念入りにダブルチエックを実施している。SNS 対応についてもスタッフ全体で用心している。

（廣石委員） 電話対応における個人情報の保護には気を付けている。対面では対応できるが電話慣れしていない新人は電話対応に苦労する傾向があるため、学校の授業においても伝えて欲しい。

## (10)社会貢献・地域貢献

| 【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1） | 評価 |
|---|---|
| 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 3 |
| 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか | 3 |
| 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 3 |

① 課題

コロナ禍も影響し地域貢献ができていない。

外部と関わるボランティアの機会を十分に提供できていない。

② 今後の改善方策

感染予防を徹底した地域支援を検討する。

ボランティア情報を集める仕組みを構築する。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（沼田委員） 院内で健康促進のイベントを実施している。透析や糖尿病の方の食事指導や体操教室や運動会も実施している。普段、高齢者と関わることがない新人が多く、会話をどうしたらいいか分からないという意見が多い。コロナ禍における制限が無くなっていけば学生ボランティアも検討していける。

（廣石委員） 地域の方との交流としてセミナーを実施している。小児科で連携できることを検討していきたい。

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

正解の無い対応が多く求められる現代の医療従事者において、新人にも即戦力として対応力が求められる。これらを踏まえ、知識・技術の修得だけでなく様々な状況に対応できるための考える力・行動できる力を養う必要性が高まっている。求められる力を育成するため、多様なケースワークやプレゼンテーションの機会が重要に感じられる。

また、卒業生が少しずつ多くなっていく中、卒業した生徒たちが長く現場で活躍できる環境を作って行くことが大切である。そのような中、同窓会の実施などで就職先がフォローしきれていない卒業生に対し、学校がサポートできる取り組みは非常に良いと思う。今後も各医療機関を含む地域との関係性を密にとれている学校となることを期待している。